

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年5月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4671500082号
法人名	有限会社 さくら商事
事業所名	グループホーム吉田さくらの里
所在地	鹿児島市東佐多町2060番地 (電話) 099-295-2422
自己評価作成日	平成24年3月31日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大自然に恵まれたすばらしい環境の中、両棟に囲まれた四季折々の木々や花また中庭にてご利用者様が天気の良い日はお茶を飲んだり、青空のもと食事を交えるなどよき交流の場となっております。ホームの理念である「この家で、共にやすらぎ、共にくつろぎ、地域との触れ合いのある暮らし」を目指し地域の中で安心してその人らしく暮らすことができるよう一緒に楽しみながら支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧吉田町の静かな田園地帯に立地し、自然環境にも恵まれ、地域に溶け込んだ運営がなされているグループホームである。開設当初より、地域との関係の重要性を認識し、「地域とのふれあいのある暮らし」を理念のひとつに掲げて地域交流に努めている。運営推進会議においても地域代表者はもちろんのこと、小中学校関係者、駐在所、消防署など、毎回地域関係者に幅広く出席を依頼し、ホームの催し物や炊き出し訓練などの取り組みを合同で行っている。運動会見学や地域の敬老会では、利用者が踊りを披露したり、文化祭には作品を出品するなどして地域の一員として社会参加している。また、気軽にお茶飲みに足を運んでくれる地域の方々もおおり、地域に根づいた運営がなされている。2ユニット合同でのレクレーションや、各ユニットを日常的に行き来する機会も多いことから、全職員が全利用者を把握できるようになじみの関係を築き、ときにはユニット間の異動も行うなどの工夫を行っている。医療面でも協力医療機関との24時間の連携や、看護職の配置を充実させて利用者の健康管理はもちろんのこと、本人・家族の希望による重度化・看取りについてもチームとして最大限の支援に取り組んでいる。

職員の離職が少なく、また、若い男性職員も多いため、職員間のチームワークとバランスがうまく保たれており、ほとんどの職員が看護師、準看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなどの有資格者であることから、豊富な経験や知識を活かしての質の高いサービスの提供が行われている。利用者の表情も穏やかで、ときには冗談も言いながら、自然体で暮らしている様子が伺われた。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示しており、お互いに共有し、日々の実践に繋がっています。	開設当初の職員全員が話し合い、理念を作成している。「地域とのふれあいのある暮らし」の文言には地域社会との関係の重要性を謳っており、地域に開かれたグループホーム運営を目指して実践に繋がっている。理念は毛筆で大きく書かれ、ホーム内職員の目につくところに掲示している。また、毎月の会議で理念を確認することもある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホーム行事では避難訓練、餅つきなど協力頂き、地域行事でも文化祭など積極的に参加しています。	地域行事（敬老会、文化祭、小中学校の運動会など）に積極的に参加しており、敬老会では利用者も踊りを披露するなどして地域の方々と楽しい時間を過ごしている。また、ホームの夏祭り、餅つき、門松作りにも地域の方々の協力があり、日常的にも気軽にお茶飲みを訪れる方もいる。小中学生のサマーボランティア、職場体験実習の受け入れも行い、地域の子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	自治会のサロンでの講話、避難訓練などで地域の方への勉強会を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議にて行事、サービスなどの報告、意見交換の場を設け、情報交換を行っています。	家族代表、行政、自治会長・副会長、老人会長、消防署、駐在所、小中学校関係者など幅広い地域関係者に出席を依頼している。運営推進会議を行うことで地域との情報交換や合同での催し物などの実現が可能になり、災害時の炊き出し訓練も地域と合同で行う予定である。また、認知症についての講話の依頼もあり、職員が自治会のサロンで地域向けに勉強会と体操教室を開くなど地域貢献にも活かされている。	

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と必要がある時は連絡を取り合い情報を共有しています。	相談、報告などで積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。また、後見人制度を利用している利用者もおり、毎月訪問もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や研修に参加して、お互いに理解し日々の実践に繋がっています。	運営規定に「緊急やむをえない場合を除き身体拘束その他の利用者の行動を制限する行為は行いません」と明記されており、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置して2ヵ月ごとに話し合いを行っている。事例検討会は職員全員参加して拘束について研修及び意見交換を行っている。また「身体拘束を行わないケア」を定期的に読み上げ、職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。日中は施錠などせず、職員の見守りで安全で自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修などで理解し、日々の実践に繋がっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加、勉強会などを開いているが一部のスタッフが関わっているため、他職員への理解が少ないので、今後学習会を積み重ねていきます。		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除については管理者が時間をかけて丁寧に説明を行い、ご家族に理解、納得して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には意見、要望シートを活用、ご家族の方には意見箱を設けています。	年1回の家族アンケート、担当者会議、日常の面会時や電話連絡の際に家族からの意見・要望を聞き出すようにしている。また、年2回家族会も行い意見交換やアンケートの集計結果も報告している。出された意見、改善点などは職員全員で話し合い、今後の運営やサービスの質の向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議、協議会、ホームミーティング等で職員が積極的に意見が出せるよう働きかけ反映に努めています。	毎月、合同会議、ユニットごとのホームミーティングなどで意見交換や外出支援、レクレーションの提案についての話し合いを行っている。また、職員に役割分担をして外部研修への参加を促し、やりがいを持って働けるようにしている。資格についてもほとんどの職員がチャレンジして介護福祉士、ケアマネジャーの資格を取得している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい雰囲気作りはもちろんのこと各自がやりがいをもって働けるよう配慮したり研修会への参加、資格取得に向け支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加を勧めており内容は報告書を作成し合同会議で報告理解を深めています。職員一人一人を把握し、その職員に必要な研修が受けられるよう支援しています。		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域交流会に参加したりグループホーム協議会に加盟しており、催しや研修会に出席した際、意見交換や施設見学を互いに行っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問を行い、情報交換を行ったり、ご利用者が落ち着いて話ができる環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が話しやすい雰囲気作りに努め、不安や要望に対して耳を傾け、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者に会いに行ったり、ホームに足を運んで頂き、必要としている支援を見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど一緒に行い、昔の経験を聞きながら指導して頂き、関係を築いています。		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月1回のお便りや面会時など、生活状況をお伝えしています。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>電話での連絡や自宅訪問、自宅周辺へドライブ、墓参りなど行っています。</p>	<p>自宅の畑の収穫に帰ったり、なじみの美容室を継続している利用者もいる。また、ホームに友人が来て一緒にお茶を飲むことがあることから、ホームに訪ねやすい雰囲気配慮し、関係継続の支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの行動を把握してスタッフが間に入り、良い関係が築けるようにしています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご利用者、ご家族の方と連絡を取り合ったり、お見舞い、電話、面会等を行うことで状況をお聞きしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意見を尊重し、日々の関わりの中で行動や表情から汲み取るようにしています。	ほとんどの利用者とは口頭での意思疎通が図れるため、日々の会話や関わりで思いや意向の把握に努めている。また、日々の暮らし方の希望や思いなどは入居時に暮らしの情報シートを作成し、個々に応じて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用したり、ご利用者、ご家族に話を伺い、スタッフ間で共有しサービスに繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送り、バイタル、食事、睡眠、排泄チェック表など用いて現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングやカンファレンス、主治医などから意見を頂き、介護計画を作成しています。	入居時に好きな事や暮らし方の希望などを聞き取り、情報シートを作成して主治医の意見も反映させた介護計画を作成している。また、毎月モニタリングを行い、計画の確認、ケアの見直しを行い、必要に応じて随時見直しを行っている。変化がなくても定期的な見直しを3ヵ月ごとに行っており、現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別シートを用いてご利用者の状況を把握し、ケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の意見、ご要望に耳を傾けて必要に応じて柔軟に対応できるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容サービスなどを活用したり、民生委員や自治会の方々より情報を頂き、地域の行事に参加したり、運営推進で包括、警察などに協力を得ながら支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望するかかりつけ医となっており、受診時には付き添っています。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、緊急時には協力医療機関と24時間体制の連携が話されている。ホームに看護師が複数勤務しており、受診もほとんど職員が同行しており、必要があれば、家族に同行してもらっている。受診後は随時結果を報告している。	

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>各ホームに看護職が配置しており、異常があればすぐに連絡できる体制をとっています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は連絡をこまめに取ったり、スタッフも足を運ぶなどして状態の把握に努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階で話し合いの場を設け、希望を聞いたり、主治医などから意見を頂いています。</p>	<p>入居時に緊急時及び重度化・看取りの対応についてホームの方針を説明し、家族の希望も聞いて同意書を作成している。入居後は身体状況に応じて医師の指示のもと、方向性を話し合っている。これまでに看取りの経験もあり、職員も方針を共有して本人・家族の希望に沿ったホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>研修に参加したり、医師や看護師の指導を受けるなどして、対応できるようにしています。</p>		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練には消防、地域の方々に参加して頂いたり、ホーム内で自主避難訓練など行っています。</p>	<p>年2回、定期的な避難訓練と2ヵ月ごとに自主訓練も行っている。訓練に地域住民、運営推進委員の参加もあり、協力体制が築かれている。また、今年度は消防分団の参加も予定されている。スプリンクラー、自動通報装置も設置されて、近隣の方も緊急連絡網に登録されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誘導などの声かけは、耳で小声で伝えるように常に気を配り対応しています。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に配慮している。定期的な勉強会や日常の業務で気づいたことは職員間で注意し合うなど、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の立場で声かけの工夫や細かい動作などは見逃すことなく支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースその日の状況に合わせて活動できるように支援しています。また、個別ケアを設け、一人ひとりに見合った活動を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	化粧など一緒に行ったり、訪問美容を活用しカット、髪染めも行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と一緒に食事メニューを作成し、買い物、食事準備、後片付けなどを行っています。	高菜漬け作り、餅つき、恵方巻き、味噌作りや家庭菜園の世話を職員とともに行うことで、季節感を味わうことにつながるよう支援している。移動パン屋の訪問や、時には外食に出かけたり、ドライブの途中にドーナツ屋・アイスクリーム屋に立ち寄ることもある。また、季節によっては中庭で食事やお茶を楽しむこともある。	

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分チェック表を用いて把握しています。また、個別に主治医や栄養士のアドバイスも頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るところはして頂き、出来ないところをスタッフ側でサポートしています。また、研修に参加したり、勉強会なども行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いてパターンを把握し、失敗した時などもさりげなく声かけ、誘導を行っています。	排せつチェック表を作成し、個々の排せつパターンを把握し、声かけ誘導をしながら、日中はトイレでの排せつを支援している。また、入居時おむつ使用だったが入居後に改善された利用者もおり、ほとんどの利用者が日中は布パンツで過ごしている。排せつの自立に向けた取り組みは家族の負担軽減、本人の喜び、職員の自信にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動、食事（ヤクルト、牛乳、ヨーグルト等）の工夫、腹部のマッサージ、主治医からのアドバイスも頂いています。		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご利用者に入浴したい順番などお聞きし、ゆっくり入浴できるように支援しています。	基本的には週3回であるが、本人の希望によっては、毎日でも入浴可能である。時間も入居前の生活パターンに合わせて夕方・夜間と個々に応じて入浴の支援を行っている。温泉の希望もあり、個別支援で連れて行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の状況に合わせて日中の活動に参加して頂いています。日中の活動量を把握するためにチェック表を用いて睡眠パターンを把握しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者ファイルの薬一覧表を見て理解し、変化がある時は主治医へ報告する体制を整えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりの経験、知識を教わりながら日常生活の中で役割をもって頂き、支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、季節に応じてドライブに出かけたり、ご家族の方と墓参り、食事なども出かけられるよう支援しています。	散歩や買い物、ドライブなど出来るだけホームに閉じこもらないよう戸外に出かける機会を作っている。気候のいい時期は弁当持参で近くの公園や池まで出かけたり、中庭で日光浴を兼ねてお茶や食事を楽しんでいる。また、初詣、ぶどう狩り、花見、八重山公園散策、海岸などにも出かけて季節を感じられるように外出支援を行っている。	

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、自己管理にて財布を持参されている方や、困難な方でも買い物時にお金を渡し、支払いをされるなど支援しています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご希望があれば手紙や電話などのやりとりが出来るように支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を味わって頂くためご利用者と作成した作品や花、名札など取り入れてくつろげるように工夫しています。</p>	<p>共用空間のリビングは広く、合同でのレクリエーションを行うなどユニット間の交流の場にもなっている。また、随所に手作りの作品や毛筆で書かれた理念、利用者の目標・格言などが飾られ、落ち着いた和の趣が感じられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにソファを置くことでご利用者が思い思いにくつろげるよう支援しています。</p>		

鹿児島県 グループホーム吉田さくらの里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者、ご家族の方と相談しながら使い慣れたものを置くことで居心地よく過ごせるよう工夫しています。</p>	<p>家で使っていたという飾棚をホームでも同じようにセッティングしている利用者や、鏡台と化粧品を持ちこんでいる利用者も多い。他にも仏壇、遺影、絨毯、座イスなど使い慣れたものや、本人が安心して暮らせるためのものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるように工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを取り付けたり、障害になるものはスタッフが意識して片付けを行うなど工夫しています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない